

## 1 はじめに

一般社団法人中部地質調査業協会では、一般の方々に少しでも「地盤に興味を持って頂きたい!」との強い思いから、地質見学スポットをホームページ上で紹介してまいりました。

不定期ながら徐々にその数を増やし、今では28箇所(2019年に2箇所追加)になりました。

前号と同様に、何気ない景色が、その成り立ちを知ること、興味深い風景へと変貌する楽しみを感じていただけたらと思います。

私たちの暮らす日本、その総面積は世界の陸地の1%にも満たない小さな島国、生い立ちは2500万年ほど遡り、プレートの活動による大陸からの分離にはじまり、数々の大事件を経て現在に至ります。

小さな島国でありながら3000m級の険しい峰々を有することで、季節風により年間降雨量約1700mmと温帯でトップクラスの潤沢な水に恵まれ、日本独自の動植物は3000種を超えています。

その反面、地震、台風、降雪など厳しい自然環境にさらされ、水害、土砂災害と隣り合わせの生活を余儀なくされます。

このように、日本は“たぐいまれな大地”であり、“激動の大地”でもあります。

その地形、地質は変化に富み、複雑であるが故に、各地に絶景が満ち溢れています。

本号での掲載が後編となります。掲載を踏まえ、若干の加筆、修正をいたしました。

激動が垣間見られるスポットを多くの人に見ていただきたい、そんな思いで執筆しています。

至らぬ点はご了承下さい。

身近な地質スポットの情報提供、ご意見・ご要望も大歓迎、皆様からの声が私たちの活動の支えとなっております。

また、今回もラーメン情報(図-12)を併せて掲載しています。参考にしてください。



図-1 身近な地質スポット案内図

## 2 身近な地質スポット

現在HP上で紹介している地質スポットは28箇所、今回68号ではその内、表-1の13箇所を紹介いたします。  
ロマンを感じられるスポットはありますでしょうか。

表-1 紹介する地質スポット一覧表(68号)

節	項	市町村	題目
(1)愛知県	1-1	春日井市	奇妙な模様の巨石
	1-2	名古屋市	名古屋市内の段丘崖
	1-3	常滑市	小鈴谷海岸の海食崖
	1-4	豊田市	猿投山の球状花崗岩(菊石)
	1-5	設楽町	設楽ダム建設予定地
	1-6	小牧市	岩崎山
	1-7	豊橋市	渥美層群の海食崖
	1-8	尾張旭市	吉賀池湿地
(2)岐阜県	2-1	可児市	二野鍋煎古墳(横穴墓)
	2-2	岐阜市	鏡岩
(3)三重県	3-1	いなべ市	インブリケーション
	3-2	伊賀市	上野城
(4)静岡県	4-1	静岡市	大谷川放水路

### (1)愛知県

#### 1-1.奇妙な模様の巨石／春日井市細野

春日井市北東部の基盤をなす岩盤は古生層(付加体)です。

春日井市細野周辺では北部に付加体が露頭し、南部では上部に第三紀層が堆積しています。

この付加体は一般に秩父古生層と呼ばれ、チャート、砂岩、粘板岩よりなります。

第三紀層は、粘土分を多く混在した礫質土よりなり、土岐砂礫層と呼ばれています。

今回紹介する地質スポットは古生層の岩盤に見られる奇妙な模様の巨石です。

古生層は長い年月(3~5億年)の間に、当初水平であった層理は地殻変動による褶曲を繰り返し、傾斜したり、わん曲したり、途中で引きちぎられたり、硬い岩盤がまるで軟らかい鉛細工のようにくねくねと奇天烈な模様を見せてくれます。

よくよく考えれば、人力では到底及ばないその強力な地球の力にゾッとすることでしょう。

そんな奇妙な文様の露岩、巨石を探しながら、お手軽なプチ登山も出来てしまう東海自然歩道が整備されています。

写真-1に見られる巨石は、厚さ数cmの層理がうねうねと褶曲し、「どうしたらこんな事に?」と首をかしげ、見とれてしまいます。

自然歩道は沢沿いに整備されており、途中には写真-2に示す「縁者不動の滝」があります。



縦横5m以上もある巨石。  
うねうねした文様が目を引きます。  
石のこと、付加体のこと、地球のこと、知れば知るほど感心が深まる、そんな巨石ではないでしょうか。  
もしかしらたら、東日本大震災時に、プレート境界部などではこんな模様が新たに生まれているかもしれません。  
そもそもこんな巨石、どこから転げ落ちてきたのでしょうか？  
なんでここで止まったのでしょうか？  
よく割れませんでしたね。  
いつからここにいるのですか？  
当然、石は答えてくれませんでした。  
自然歩道から斜面を30mほど登ったところで発見しました。

写真-1 奇妙な模様の巨石



落差5m程度の小さな滝ですが、下流には橋が架かり、椅子もあることから、滝を眺めながらゆっくり、お弁当など食べられます。

写真-2 縁者不動の滝

#### 1-2.名古屋市内の段丘崖／名古屋市北区～東区

名古屋市の中心街である栄、新栄、千種などは中位段丘面と低位段丘面に位置しています。

中位段丘面は熱田面と呼ばれ、北は名古屋城、南は熱田神宮、西は納屋橋、東は覚王山麓まで広がり、名古屋の中心街がほぼすっぽり収まっています。

低位段丘面は大曾根面と呼ばれ、上記熱田面を東西に分断し、北は徳川町、南は鶴舞公園まで続き、熱田面よりやや低い平坦地です。

これら段丘面の周囲は沖積面が取り囲み、境界部には段丘崖が存在しています。しかし、地表面は都市化が進み、アスファルトや建造物に覆われ、崖と識別が出来るスポットは限られます。

それでも地表面の凹凸を体験するならば、名古屋の中

心、広小路通を東西に横断してください。

沖積面と熱田面の境界を納屋橋で、熱田面と大曽根面を中区役所と千種駅周辺で高低差を感じられます。

また、段丘面北端の大曽根や清水口では、沖積面から段丘面に移行する坂道が見られます。

住宅街では地形が改変され確認が難しい場所が多いですが、史跡、寺院などでは改変されずに、昔のままの段丘崖を観察することが出来ます。

図-2の地質図に示す○印で段丘崖の写真を撮りました。写真ではわかりづらいけど、その場に立ってみると地形の変化が体感できます。



図-2 熱田面、大曽根面北端部付近の地質図  
(出典：名古屋北部の地質図)

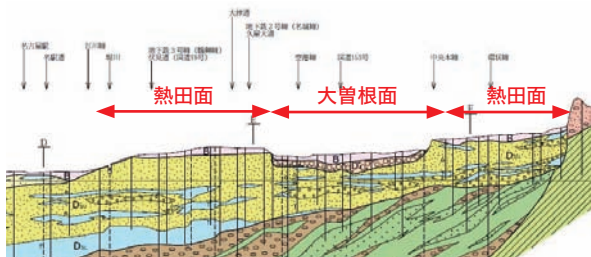


図-3 熱田面と大曽根面との比高差  
(出典：最新名古屋地盤図)

### 1-3.小鈴谷海岸の海食崖／常滑市大谷

海食崖とは、海岸に迫る陸地の突出部が波の激しい浸食によって造られた切立った崖のこと。

海崖、波食崖とも称され、岩石に硬軟があると奇形ができやすいことから、海岸地域の景勝地の一要素となっています。

近年、海岸線は保護の面から栗石、コンクリート等で覆い隠され、観察ができる崖は限られています。

平地の多い愛知県東部の沿岸部では知多半島のわずかに見られる珍しい地形です。

そんな中、小鈴谷海岸に見られる今回の崖は、直下まで徒歩で近づけ、波による浸食でできた複雑な地形を観察することができます。(地層:常滑累層／干潮をねらって行くのがおすすめ)

この風景(写真-3)，見覚えがありませんか？(答えは写真-5)

常滑累層は、新第三紀鮮新世に形成された地層です。

長い時をかけ少しずつ削られてできた崖は、500万年ほどの歴史を記録してくれています。

そんな年代物の自然、海食崖と現代の人工物、中部国際空港とは実に対照的です。

崖の下、1/3は大谷火山灰層が露頭し、当時の堆積環境を垣間見ることができます。

炭化した立木が火山灰より軟質なため浸食されてきた縦穴？、岩石に取り込まれつつも木組織を残す樹木の節目？、葉っぱの化石、浮石の堆積状況等が観察できます。



写真-3 高さ15m程度の海食崖と中部国際空港



写真-4 海食崖で観察できるいろいろ



写真-5 問いの答え

出典：「半田地域の地質」S61地質調査所 p6

## 1-4.猿投山-球状花崗岩(菊石)／愛知県豊田市

国指定天然記念物(S6.2.20指定)である猿投山の球状花崗岩(菊石)を紹介します。

球状花崗岩とは、花崗岩の中に多数の球状、楕円状の塊が存在するもので、国内では愛知県猿投山、三重県美杉村、茨城県峰寺山、下伊那郡毛無山などで産出される、極めて珍しい花崗岩です。

結晶の模様が花の菊に似ていることから菊石と称されています。根尾などで産出される菊花石とは母岩も形成過程も違います。

球状体は、花崗岩マグマが貫入した際に、周りの堆積岩の岩片を捕獲し、これを核として球体を形成したと考えられています。球体1つの大きさは4~8cm程度で密集して観察されることが多いですが、決して球体同士が結合しておらず、単独で球体をなしています。

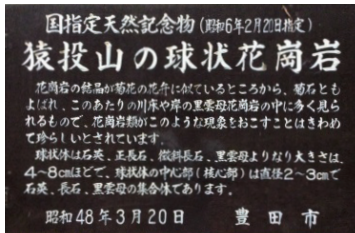


写真-6 広沢川の河床にハッキリと表れる球状花崗岩

愛知県豊田市加納町に流れる広沢川沿いに「菊石・猿投七滝遊歩道」があり、球状花崗岩を観察できます。残念ながら天然記念物であるため、ルーペをあてることも、触れることもできません。



写真-7 遊歩道、散策路で観察できるいろいろ

遊歩道は昭和48年に整備されたようですが、現在もきちんと管理されており、入口にトイレがあり、谷底に設けられた歩道は舗装され歩きやすく、斜面の岩盤には落石防止対策が施されています。

また、広沢川は猿投山を源流とする小河川であり、水が綺麗で、すがすがしい気分を味わえます。

球状花崗岩-西の宮-東の宮-猿投神社を巡るコースは、所々に休憩所もあり、夏のプチ登山には最適な場所ではないでしょうか。(なにより涼しい! 熊が出没するので、鈴やラジオをお忘れなく。)

散策途中では、花崗岩の様々な露岩状況、滝、樹木などが観察でき、自然の雄大さ、多様性、人間が成せる限界などを感じられるスポットが盛りだくさんです。

## 1-5.設楽ダム建設予定地／愛知県北設楽郡設楽町

設楽ダムは、愛知県東三河地方を流れる豊川の上流部に建設されるダムで、豊川で幾度となく繰り返されている洪水氾濫と、頻発する濁水の被害から人々の暮らしを守るため、そして活力に満ちた東三河地域の発展に貢献するための3つの役割を果たす多目的ダムです。

現在、ダム建設のため、様々な調査、関連工事が行われ、ダムの全貌がおおむね明らかとなってきています。

国土交通省中部地方整備局のホームページには、特設ページが設けられ、ダムの諸元、事業背景など詳しく知ることが出来ます。

(国土交通省ホームページ 設楽ダムについて：

[http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/01damu\\_info/index.html](http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/01damu_info/index.html))

設楽ダム事業は、昭和48年に愛知県が設楽町に対し調査を申し入れ、昭和53年に調査事務所を設置し実施計画調査に着手、平成38年度の完成を目標に進められています。

これからの10年、ダム建設は着々と進められていくことでしょう。ダム完成前の現地を観察できるのは限られた期間しかありません。ぜひこの機会に自分の目で確認してみてください。現地に赴かずとも、インターネットであれこれ調べることができる昨今、現地レポート、空中写真などからいろんな情報が得られます。

また、当協会HP「技術資料」>東海三県の地質と土木地質の特徴」をご覧頂ければ、予定地の地質を学ぶことも可能です。

設楽ダムの諸元を表-2にまとめ、ダム完成予想図を図-4、ダム建設予定地の現在を図-5に示します。

表-2 設楽ダムの諸元

①形式	重力式 コンクリートダム	自重で水圧を支える
②堤高	m	約129
③流域面積	km <sup>2</sup>	約62
④湛水面積	km <sup>2</sup>	約3
⑤洪水調節容量	m <sup>3</sup>	1,900万
⑥利水容量	m <sup>3</sup>	7,300万
⑦堆砂容量	m <sup>3</sup>	600万
⑧有効貯水容量	m <sup>3</sup>	9,200万
⑨総貯水容量	m <sup>3</sup>	9,800万



図-4 設楽ダム完成予想図  
(出典：国土交通省HP)



図-5 設楽ダム建設予定地の現在  
(出典：GoogleEarth)

## 1-6.岩崎山／愛知県小牧市

岩崎山は、小牧山より北東約3kmに位置し、南北約200m、東西約300mの範囲で小高い丘を形成し、山頂の標高は54.6mです。

岩崎山を構成する地質は、中生代白亜紀の領家花崗岩類で、尾張東部から西三河地域の猿投山地を構成する深成岩(花崗岩)とは同類です。

紹介済みの小牧山は付加体のチャート(堆積岩)です。

一方、同じような平野の小山である岩崎山は花崗岩(火成岩)、その地質はまったく異なるものです。

小牧・長久手の戦い(1584年)では、岩崎山に羽柴軍の砦が築かれ、小牧山の徳川軍と敵味方に分かれて睨み合っていました。

現在の岩崎山には熊野神社があり、昔とかわらず小牧山頂を望むことができます。

ここでは花崗岩の露頭が随所に見られます。岩肌の所々に残る人工的な石切跡を見つける、岩盤の風化進行状況を観察するなどしてはいかがですか。

この花崗岩は名古屋城の石垣にも使用されており、境内横の五枚岩は県指定の天然記念物、十字架を連想させる切支丹灯籠は市指定の有形文化財です。



写真-8 岩崎山全景(神社入口より南→北を望む)



写真-9 岩崎山露岩／花崗岩(五枚岩)



写真-10 切支丹灯籠

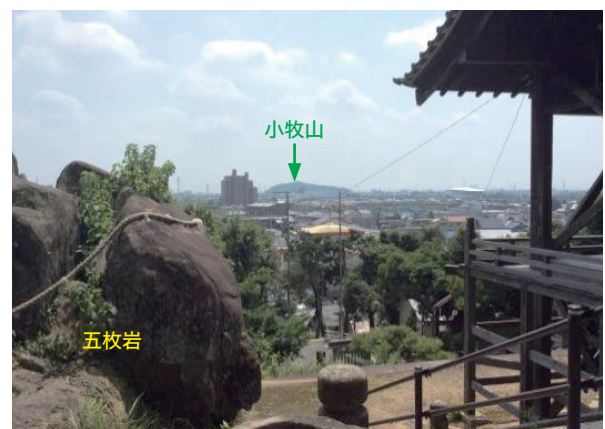


写真-11 岩崎山から小牧山を望む

## 1-7.渥美層群・海食崖／愛知県豊橋市

渥美半島では外洋に面した風光明媚な海岸線がみられます。

渥美半島は西部に分布する秩父帯中古生界の山地と、その周辺の低地、半島東部に広く分布する更新統の海成段丘で構成されています。海成段丘は「天伯原面」と呼ばれる高位段丘と「福江面」と呼ばれる中位段丘からな

り、天伯原面は浜名湖西岸から赤羽中村にかけての太平洋岸に、福江面は天伯原段丘より北側の高師原付近より中村以西まで分布しています。

段丘の頂面は全体的に北～北西へ傾斜し、天伯原面は浜名湖西岸で標高約80m、中村では標高約30mです。

福江面は標高約30mから約10mにまで高度を下げます。

このような渥美半島段丘面の高度分布を形成した構造運動を「渥美曲隆運動」と呼んでいます。

天伯原面の地層は渥美層群と呼ばれ、下位より二川層、田原層、豊橋層に区分されます。

これら各層の基底には下位の地層を削り込んだ開析谷が見られます。各層にはほぼ共通の堆積サイクルがあり、それは下位より河川性の礫質土、内湾性の細粒土、外浜の砂質土、海浜の礫質土から構成されることから、海進-海退による一連の堆積サイクルとしてとらえられています。

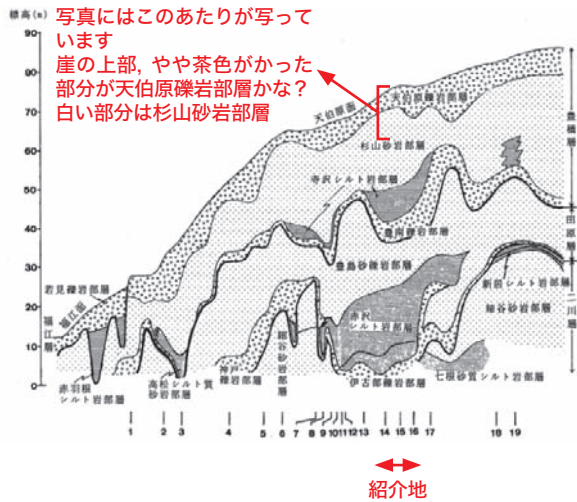


図-6 渥美層群の層序断面図  
(出典：「地質学雑誌Vol.100/愛知県渥美半島に分布する更新統渥美層群の地質年代と対比について」島本 昌憲ら)



写真-12 渥美層群の海食崖と遠州灘

## 1-8.吉賀池湿地/愛知県尾張旭市

尾張旭市に吉賀池湿地と呼ばれる小さな湿地があります。

名古屋市の東部に位置する尾張旭市、その地形は大きく北部の丘陵地、南部の低地に区分されます。

丘陵地は、起伏の少ないなだらかな斜面を形成しており、その地形を利用して灌漑用のため池が数多く設けられています。地質は、新第三紀鮮新世に形成された東海層群中の矢田川累層よりなり、おもに固結した粘性土、締まった砂質土で構成されています。

低地は、東から西へ流れる矢田川沿いに分布し、その平坦面を利用し、瀬戸と名古屋を結ぶ名鉄瀬戸線や、瀬戸街道が市街地を横断しています。

吉賀池湿地は、尾張旭市北部にある大きなため池「濁池」に流れこむ沢沿いに分布する湿地で、水源は森林公園の雑木帯の丘陵地です。

湿地では、水の流れが非常に緩やかであるため、ごく細かな土粒子が沈殿しやすく、加えて枯れた植物が幾重にも積み重なり、腐植土を形成します。開発行為ではたびたび悩みの種となりますが、肥沃な土壌は豊かな自然環境をもたらす貴重な資源です。

地形や地質に関する文献でよく目にする文字に「後背湿地」(図-7)がありますが、自然のままの状態を保った後背湿地を現実に目にするのはほぼありません。平野に広がり、肥沃で利水便のよい後背湿地は古くより水田に利用されてきたためです。

吉賀池湿地は、後背湿地とは形成過程が異なりますが、周囲に丘陵地がひろがる閉鎖空間にひっそりと佇む小さな湿地で、四季折々の貴重な植物(春のハルリンドウ、夏のサギソウ、秋のシラタマホシクサなど)が観察できます。

湿地は木製の観察路、外周フェンスで管理され、年に数回一般公開されています。(尾張旭市ホームページ <http://www.city.owariasahi.lg.jp/kurasi/sangyou/kankou/meisho/yosigaike.html>)

大昔、広大な平野に広がっていたであろう景観を思い浮かべれば、文献に書かれた難しい単語も素直に受け入れられるのではないのでしょうか。

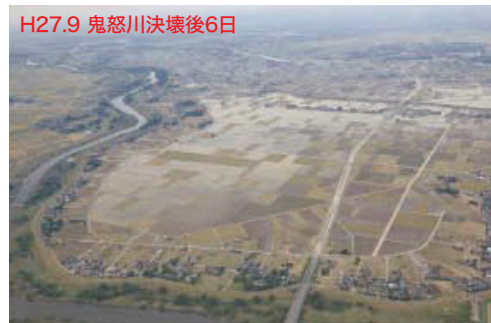


図-7 後背湿地-自然堤防の背後にできる湿地帯  
(出典：国土地理院HP)



写真-13 吉賀池湿地(2018.4.4撮影)

## (2) 岐阜県

### 2-1. 二野鍋煎古墳(横穴墓) / 可児市久々利

六世紀後半～七世紀末、今から約1500年前に人工的に作られた洞穴式の古墳です。

岩肌の斜面に洞穴状に墓室を穿って造られたもので、可児市久々利川水系に百基以上が確認されています。

この横穴墓は県指定史跡であり、普段はフェンスに囲まれ、近づくことは出来ません。

一見地質とは関わりのなさそうなこの史跡、実は当該

地域の地質的特徴と密接に関係しているのです。

岐阜県可児市を構成する地質は、第三紀中新世に形成された瑞浪層群を基底とし、上位に同紀鮮新世の土岐砂礫層、第四紀層となります。

当然1500年前には、現在のような掘削重機などはなく、花崗岩(墓石等)のような硬い岩盤を掘ることなど出来ません。

しかし、瑞浪層群は形成された時代が新しく(約500～2500万年前)、凝灰岩、凝灰質砂岩、凝灰質泥岩よりなり、サバと呼ばれる人力掘削が可能な岩盤です。

遠目には変色し削れそうに見えますが、所詮岩盤です。それなりに硬く地道な作業であったことでしょう。

祖先がこつこつと時間をかけ、掘ったのだと思うと感慨深いスポットです。



古墳の説明が書かれた看板が設置され、古墳周囲はフェンスで囲まれています。

この地域の古墳分布図があり、ここを足がかりに、あちこち回るのも一興です。

写真-14 県指定史跡 二野鍋煎古墳 位置図



遠目からは2基が確認できますが、さらに北側にもう1基あります。大きさは6.2m×3.5mとこの地域では中規模なものです。

写真-15 横穴墓

### 2-2. 鏡岩 / 岐阜県岐阜市加野

鏡岩について、岐阜県のホームページでは、次のように紹介されています。

岐阜市加野地内の長良川右岸、大蔵山の突端が断崖をなして長良川に臨むところに、この鏡岩がある。これはチャート層中に生成された断層の滑り面である。こうした断層によってできる滑らかな面を「鏡肌」といい、ここから「鏡岩」と名付けられた。ここでは約4m四方の鏡肌が2箇所生成されているが、現在はかなり風化してくもっている。いつ、どのような活動によりできたかは不明であるが、地質現象の結果を示す自然標本として重要である。



写真-16 想像以上に狭いです



写真-17  
岐阜市教育委員会で  
事前に鍵を借ります

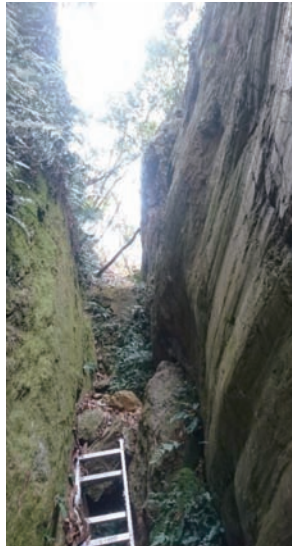


写真-19 圧巻の一言！



写真-18 急な階段を上ると…



写真-20 鏡岩

訪れた日は、あいにくの曇り空。早朝、岐阜市教育委員会へ鍵を借りに行き、現地へ向け出発。

現地の入り口はかなり狭く(写真-16)、走行車には十分注意しなくてはなりません。

扉を開け、いざ中へ入ってみるとその先は急な階段になっていました。(写真-17, 18)

梯子3本を登り切ると、ありました！

お目当ての「鏡岩」が…。

かなり狭く、目の前がまさに巨大な鏡岩であるため、まるで大きな壁が迫ってくるかのようでした。(写真-19, 20)

天気良ければ、断面が反射して、まるで鏡のように見えるそうです。

神秘的な岩に圧倒されたい方、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

### (3)三重県

#### 3-1.インブリケーション/三重県いなべ市北勢町阿下喜

「インブリケーション」は、日本語で覆瓦構造(ふくがこうぞう)と訳されます。

インブリケーションとは、河原で見られる現象で、礫がみんな行儀よく、規則的に傾いて並んでいる構造をいいます。

河原の礫はボールのように真ん丸ではなく、つぶれた形になっています。

それが流れて落ち着くときは、流れに逆らうことなく平らな面を上流側に向けます。そうでなければ水流でめくられてひっくり返り、再び流されてしまうからです。

後から流されて来る礫も、みんなそのように並んでいった結果、図-8や写真-21のような配列になってしまうのです。

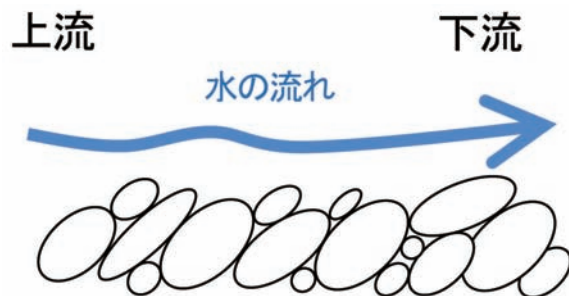


図-8 インブリケーション





写真-21 員弁川(阿下喜)の河原にて撮影

礫の並びを観察すると、たとえ枯れた河川であっても、どちらが上流側か、当時の水流の方向(古流向)を判別することができます。

インプリケーションは礫に限らず、砂でも顕微鏡レベルで観察することで方向性を見いだせる場合もあるそうです。自然の摂理に感心させられます。

このインプリケーションはどここの河原でも観察することができます。

遠目に河原の礫を観察してみてください。校庭に行儀良く整列することもたちのように、規則正しく礫たちが並んでいる姿がみられることでしょう。



段丘崖に見られる礫層  
残念ながら、明瞭なインプリケーションは確認できません。  
古流向は奥から手前？

写真-22 員弁川(阿下喜)の河原で観察できる段丘崖

### 3-2.上野城／三重県伊賀市

伊賀盆地の位置は、南北に細長い三重県の中央部から西にとび出した部分にあたります。

そのため北は滋賀県、北西は京都府、南西は奈良県に接しています。

南西部(名張市の南西)には室生火山群があり、これに伴った海成の第三紀層もあります。

北部は丘陵地帯を経て琵琶湖に続いています。東は布引山系を経て伊勢平野に下ってゆくことができます。

上野市駅前の芭蕉翁の銅像を見て、この北側のおりを西へ進むと学校通りに出ます。

この道には市役所、西小学校、上野高校、藤堂藩崇広

堂、図書館、崇広中学等があり、上野高校の裏には白鳳城がそびえ立っています。

さらに西へと進むと、下り坂になり下には荒木又右衛門仇討ちの鍵屋の辻があります。

ここから撮影方向の堤防が西に見えてきます。

撮影方向から東をふりかえって見ると、台地の上に市街地があって、北のほうには城が見えます。

この台地は河岸段丘で第四紀洪積世から沖積世にかけてできた地形です。段の数は全部で5段あります。

城のある所は第1段丘で、そのすぐ南の少し低い所が第2段丘、これから南にかけて人家の密集した所が第3段丘です。

さらにこの下の平地(堤防の下)が第4段丘で、この川を現在の川が流れていますが、これが第5段丘です。

ここで市街地の段丘についてまとめておきます。

図-9は、市街地の東西方向の断面図です。

撮影方向から見た段丘はこの図の西側のもので、I、IIが西大手町、IIIが市街地、IVが堤防まで歩いた道で、Vが長田川です。

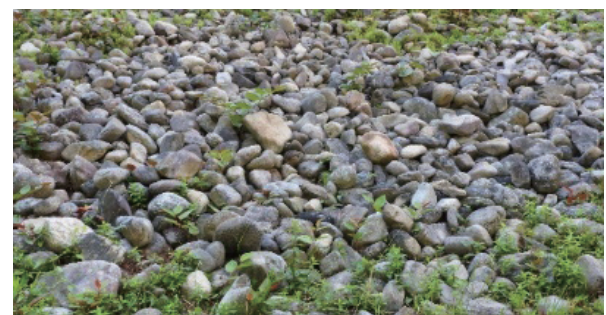
これらの段丘面から砂礫を採集して礫質を調べてみると、ある時代にどの方向の山地から、どんな礫が運ばれてきたのかよくわかります。



写真-23 長田小学校から見た上野市街地の段丘

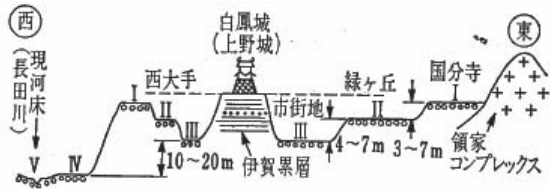


写真-24 上野城



玉石がたくさん転がっている

写真-25 上野城の裏側



I, II, III, IVは段丘面, Vは現河床.

図-9 市街地の東西方向の断面図

(出展:「三重県地学のガイド」磯部克著/コロナ社/1979年10月25日出版)

## (4) 静岡県

おおやがわ

### 4-1. 大谷川放水路/静岡県駿河区大谷

静岡市中心街には、治水を目的とした、大谷川放水路が流れています。

この放水路は、巴川流域の治水対策の一環として建設された人工の水路で、葵区古庄で巴川(二級河川)から分流し、駿河区大谷で駿河湾に注ぎます。

巴川は、葵区北部を起点とし、文珠岳山麓、安部川扇状地、日本平に行く手を阻まれながら、蛇行して清水港に注ぐ、河川勾配の緩やかな河川です。巴川の水位は近くの安倍川と比較し15m程度低く、本流域は古くより洪水の被害に悩まされてきました(図-10)。

このため、巴川流域の浸水被害を軽減すべく、麻機遊水池、大谷川放水路、大内遊水池、河道改修、雨水貯留施設などの治水対策事業が現在も進行中です(図-11)。

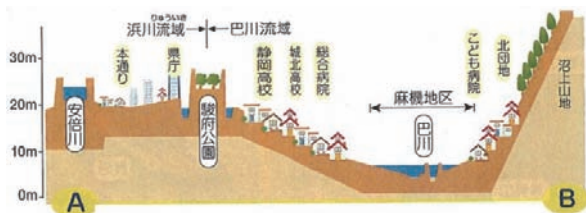


図-10 静岡中央部の横断面

横断面の出典: 巴川探検隊パンフレット  
静岡県静岡土木事務所

大谷川放水路は、建設計画のさなか、1974年7月に七夕豪雨の被害を受け、同年建設が開始され、1999年、実に25年の歳月をかけ完成しました。

分流地点にはゴム堰(ゴム引布製起伏堰/写真-26)が設置され、一定水位を超えると自動でゴムチューブ内の空気が抜け、分流が開始されます。

また、河口部には防潮水門(写真-27)が設けられ、海水の遡上を防止しています。

静岡市では、治水対策事業や過去の水害についての学び場を提供しています。

市民の防災意識の向上を促し、災害に強いまちづくりの推進を図ることを目的に、治水交流資料館「かわなび」を開設しています。

誰でも無料で、映像や模型等の展示により、巴川の治水事業を知り、学び、楽しむことができます。(展示物の一例: 写真-28, 29)



図-11 巴川流域治水対策マップ



写真-26 古庄分流堰(ゴム堰)



写真-27 河口にある大谷川水門



写真-28 七夕豪雨被害状況写真



写真-29 ゴム堰の断面



図-12 地質スポット近くで食べられるラーメン  
 (地図の出典：国土地理院 電子国土web)